

## 第 6 回 JAMSNET WORLD 会議 議事録

【日時】 2019 年 11 月 3 日（日） 8 : 3 0 am- 1 1 : 0 0 am

【場所】 Oasia Hotel Novena 会議室 B1 「Courtyard Room」  
8 Sinaran Dr, Singapore 307470

開会挨拶 日暮先生

NY、カナダ、東京、アジアからメンバーの紹介

### ◆ 1. 活動報告

#### ① ニューヨーク 本間俊一先生

2005 年に始動。より効率的な支援団体を作る必要性を感じ JAMSNET を設立。JAMSNET の傘下にはメンタルヘルスネットワーク、学生主体のネットワーク、スペシャルエデュケーションネットワークなど各専門ネットワークがある。

- ・春と秋のヘルスフェア：2～3 週間に渡り、ジャパンアメリカアソシエーションが一体になり講演をする機会がある。
- ・東日本大震災支援：福島県、岩手県にてサポートアクティビティを継続している。
- ・東日本大震災被災者と 3.11 被災者の交流
- ・東北レジデントプログラム：2011 年より始動
- ・西宮フェローシッププログラム
- ・若手研究者交流会
- ・コミュニティサポートプログラム：各種のサポートプログラムを運営できるように資金が回るように手配している。
- ・グループ間の相互連携：日本医師会だけでなく、その他の外務省や領事館、大使館などと連携している。そのためにはノンプロフィットで日本人のための支援であるということを徹底することが必要。官民一緒になって働き世界中をつなぎ、緊急時のサポートをできるようなシステムを構築していくことが必要。

#### ② 東京 仲本 光一先生

- ・毎年大きな講演会を行っている。
- ・昨年は熊谷先生の講演を行った。今年は災害医療の講演を開催した。
- ・JAMSNET 東京 会員数 現在 154 名
- ・勉強会は年に 2 回行っている。広く一般の方に講演に来て頂きたいので、会費はなるべく安く 1000 円に抑えているため、実際の収支は黒字にならない。
- ・事務局の負担が非常に大きいことも問題となっている。

- ・来年の講演会について、大会長は吉田先生が務める。日本渡航医学会が毎年協賛となっているが、来年はどうか未定である。

### ③カナダ 傳法 清先生

仲本先生がトロントの医務官で勤められていた頃に第1回年次総会を行った（2014年1月22日）。スタート時は26人であった。

- ・総会の後には記念講演会を行っている。必ず一般公開している。
- ・認知症キャラバンメイト養成講座を継続し、地域でサポーター養成講座を行っている。日系2世の方々が多いため、英語版のサポーター養成講座を作成。テキストブックも英訳し、DVDも英語の字幕を付けた。日本語でも英語でも養成講座を開催している。
- ・2017年7月 カナダ政府より非営利法人、慈善団体として認定を受ける。
- ・2018年 ヘルスカンファレンス（トロント）ジャパンファウンテンテーションは会場費無料、Wi-Fi 設備あり。
- ・2019年 キャリアワークショップ（バンクーバー）モザイクも会場費無料、Wi-Fi 設備あり。カナダで仕事をしたい方達が多いために、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー、リハビリアシスタントなどがプレゼンテーションをし、ランチを食べながらのネットワーキング会を開催。小野先生による思春期に関する講演会をズームウェビナーによりカナダ全土に中継をした（参加者総勢64名）。遠隔視聴者も、講演の聴講だけでなく、チャット機能により講師との質疑応答もできた。
- ・総会 委任状を集めることが困難であるが必要なこと。
- ・ファーストエイドステーションの実施 現役看護師を中心とした活動。トロントでニーズ調査実施、259名回答。トロント・南オンタリオの日本人・日系人は日本語による健康情報（予防接種の仕方、子どもが発病した場合どの段階で救急にかかるか等）、メンタルヘルス、シニアの健康情報等を求めている。
- ・理解のある領事、医務官がいらっしゃると、連携活動がうまくいく。
- ・2019年9月 ナースキャリアセミナー 現場のナースのボランティア16名、うち10名が発表。一部の動画は当会ウェブサイト会員専用ページにアップロードしている。
- ・会員数は個人会員98名、営利団体会員、2団体（2019年11月3日現在）。

### ④アジア 吉田先生

2013年設立。アジアでのネットワーク作り、メーリングリストを作成。375名45か国が参加。今期からは橋口先生が代表を務める。アジアとオセアニア、中東、バンクーバーなどが含まれている。情報交換をする団体であり、情報提供を求められたら、それに回答するということが条件である。

- ・認知症キャラバンメイト、PFAの研修などを開催。イベントごとに資金を調達して使っていく。
- ・ジャムズネット・タイ、下部組織としてメンタルヘルスネットワークを作っている。

・ジャムズネット・シンガポール、下部組織としてメンタルヘルスネットワークができたところである。

質問：大使館や医務官と、今後連携できるのか？

回答：人事によって流動的である。領事になられた方やそれが大事だと思った外交官の方は継続的に関わって下さる。ジャムズネットの原点は、海外の邦人支援であり、ジャムズネットはそのための“道具”でもあるため、官民協力することが必要である。

質問：ジャムズネットアジア内の情報交換は貴重な情報を頂けて大変助かっている。その一方で、その情報の評価もきちんと検討して頂きたい。

回答：世話人を設けているため、JAMSNET ASIAに入るにふさわしい方かどうか評価されて参加されている。今後も評価はきちんとしていく。

## ◆ 2. 審議・事務連絡

### ① 次回の JAMSNET の開催について

濱田先生：グローバルヘルス合同学会を来年 11 月ごろ日本（大阪）で行う予定。

その会場を借りて開催することは可能。日本にいる国際医療関係者にアピールできる。

仲本先生：大阪だと人員が厳しいのではないだろうか。

次回は、ニューヨークで開催決定（10 月末か 11 月頃を予定）。

### ② ロゴの統一について（スライドのロゴの図参照）

鈴木先生：ロゴの違い（サイズや色）について

ロゴの違いによって、組織がバラバラという印象を与えることもあるが、それぞれの組織のなりたちに多様性があり、ロゴには、歴史と理念が入っている。ただ、1 つの規範が必要。一方で、規範のみならず、アクセントも必要なのではないか。

継続審議になるのではないか。JAMSNET WORLD の出版物やネットに立ち上げる際に、統一した方が良いのか、世界大会の理念を皆で考える材料にしていただければ。

加納先生：登録されている団体名である。将来的にフレキシブルに考えてもらえれば。

濱田先生：JAMSNET の本部は将来的には日本にあった方がよいのではないか。

加納先生：個人的には、全て世界は並列ではないかと思う。会員数の多さの上下関係はないような気がしている。今回はロゴの話で、JAMSNET WORLD のロゴを 1 つ作っておけばよいのではないだろうか。

鈴木先生：今回は、共通項をもっていくといったコンセンサスを頂ければ、今回の提案としてはよいのかと。背景となる理念や思いを共有することは来年度以降の議題に。

仲本先生：ハイフンを抜いたラインで作っていただくということで。

### ③ 開催の費用について

日暮先生：費用の半分は、橋口先生（日本プレミアムクリニック）が出している。今回のような形で開催することは難しいだろう。経済的な負担についてどうするのか。

傳法先生：カナダでの個人は無料。オンラインで寄付をいつも募っている。年間、営利団体は250ドル、非営利団体は100ドルにしている。会費を集めるのは活動が伴えば難しくない。

鈴木先生：ジャムズネット東京は、昨年度オンライン決済を始めた。寄付という概念が導入された。

吉田先生：法人ではないので、寄付行為やお金をプールできない。アジアでの開催の場合、NPO法人化されているニューヨークや東京が資金提供してくれても良いのではないかと思っている。

吉国先生：2018年にPFAのファシリテーター研修と一日研修を行って、トータル90名以上の参加者だった。講師のホテル代やお礼は、5000-6000のお金を使ったが、結局うまくいった。企業のスポンサーを募集して、4企業様から（300ドル×4）1200ドル寄付を貰って、その企業の方を3名無料にした。催しごとに会計を締めていくのがベストなのかな。

本間先生：ニューヨークは、財政的に恵まれていて、企業や医師会からもお金を頂いている。年間2万ドルくらい出している。ワールドの開催費用を出している。

仲本先生：東京も寄付を募る必要がある。東京の理事会で考える。

加納先生：アメリカの一般的な場合、非営利団体には2つの種類がある。一般的な団体と特別な条件を与えられたNPO法人がある。ジャムズネットは税控除の特例を設けられた団体を獲得している。寄付された方は、全額所得控除されるようになっている。法律で保障されている点が活動しやすい背景である。

本間先生：組織化することが非常に重要である。

中島先生：永住権は日本人に対してできないので、こちらの文化を発展させようとは思わない。日本にある本体の企業から出して頂くというのはいかかでしょうか。

仲本先生：今後の審議事項に。

### ◆ 3. 話題提供

(1) 「ニューヨーク邦人メンタルヘルスネットワークの目的とこれまでの活動」

森真佐子先生（NY州公認クリニカルサイコロジスト・臨床心理士／ニューヨーク日本人教育審議会教育文化交流センター教育相談室）

2006年にJAMSNET発足

2007年にニューヨーク邦人メンタルヘルスネットワーク発足

目的

- ① NY という土地柄、9・11 事件などの突発的なことがおこる可能性がある。メンタルヘルス専門家のリストを常にアップデートして、各機関（総領事館、JAMSNET、米国日本人医師会など）と連携して緊急時に備える。
- ② 日常的な連携・協力。Mailing List や年に 2 回の会合/懇親会を通して、日常の心理臨床活動に役立つ情報を交換したり、互いの専門性をシェアする。

現地ライセンス保持者 48 名

それら以外の教育・福祉・医療関係者を含めた ML メンバー 74 名

#### 主な活動

##### ① 互いの専門性をシェア

- ・年に 2 回の会合・懇親会（各回でテーマを決めて 19 回実施。最近では危機介入について）
- ・Continuing Education 臨床スキルアップシリーズ（AEDP、ACT、ゲシュタルト療法など、一つの療法に絞った 3～4 時間の講習）

##### ② 啓発・予防活動

##### ③ 危機介入

- ・東日本大震災後の支援

NY では震災に関わる心のケアや対応についてのサポートグループやホットラインの設置、補習校などにおいてのアウトリーチ講演会、「NY より心の相談 1 1 0」と題する専用のウェブサイト作成などを行った。

東日本大震災後、福島県での「子どもの支援者支援」

小中学校や幼稚園、養護学校などを訪問して、教員やカウンセラー、管理職に子どもの心のケアに関するコンサルテーションや発達障害などアメリカの最新の情報を発信している。（これまでにいわき市、相馬市、郡山市などで 9 4 校訪問）

- ・ニュージャージー州アバロン大火災後の支援（官民連携がうまくいった例となった）

2015 年、ニュージャージー州アバロン複合住宅での大火災。240 棟全焼。100 棟が邦人世帯。2 日後の週末に領事館でパスポートの発給を行う際に、メンタルヘルスネットワークに子どもの心のケア支援の依頼があった。ネットワークから有志 12 名参加した。ジャムズネットサロンを作って、親がパスポート申請手続きや発給の時間を待つ間に、遊び相手をしながら、スクリーニングや心のケアを行った。

5 日後に総領事館で、ディブリーフィングの会合を行った。領事館の感想として、メンタルヘルスの専門家が来て、細かい観察、必要な時に心のケアをしてもらって助かったと感謝の思いを伝えてもらった。また、メンバー同士普段から連携している間柄であったため、臨機応変に参加者のニーズに合わせて対応することができた。官民連携、ジャムズネットとの協力といった、日ごろの連携が迅速かつ円滑な支援につながった。

その 3 か月後に、火災があった近くの日本人学校でフォローアップ支援を行った。JAMSNET から予算をもらい、JAMSNET、領事館他、メンバーそれぞれが持つ支援団体などのリソースを共有

し協力を得た。大人へはマッサージやアロマセラピーなど癒しの空間、子どもへは様々な遊び道具を用意した。前回同様子どもと遊びながら過度な不安などのスクリーニング、必要あらば心のケア支援を行った。ネットワークから有志7名が参加した。参加者からは時間が経った今もこのような支援が受けられたありがたいとの声が上がった。今回はMHネットワークのほうから領事館への協力を依頼した。再び官民連携をスムーズに行うことができた。

## (2) 「シンガポール在留邦人コミュニティにおけるPFA研修の報告」

鈴木満先生 (JAMSNET 東京メンタルヘルス担当/JAMSNET 東京理事)

○PFA を介した海外邦人コミュニティ・及び国内災害被災地への支援

・ JAMSNET の理念や共通項

必ずしも日本国籍でなかったり、日本人のDNAが100%ではないが、日本語と日本の文化を継承する方々が増えてくる→そういった方々を想定した組織がいいのではないだろうか

Non-profitであることを表明する必要がある

PFA：善意は善行ならず。1日研修と指導者研修指導(4日間)

・ 文科省の予算をとって専門家のネットワークを作る

・ JAMSNET の世界的広がり と 連絡交流会について

・ JAMSNET 東京発足と被災地支援プロジェクトについて

2012 認定NPO心の架橋いわて(国内被災地におけるPFA研修)

2013 バンコクにおけるPFA研修

2018 シンガポールにおけるPFA研修

シンガポールで研修を受けた方がドバイでもPFAの研修を行った。

○研修を行うことで、ネットワークを強化し、海外在住邦人専門家のネットワークの拡充強化に使える

## (3) 「JAMSNET 東京年次講演会の報告(災害医療)」

仲本光一先生 (JAMSNET 東京/JAMSNET 東京理事長)

○研修について

「医療面から見た災害の定義」、「災害時の感染症対策について」、「レジリエンス」

三陸復興プロジェクトについて

普段から備えが必要。災害については、JAMSNET 東京のHPへ。

閉会挨拶(本間先生)

<参加者>

JAMSNET (5名)

本間 俊一 1) JAMSNET 2) Columbia University  
バーンズ 静子 ニューヨーク日本人教育審議会教育相談室  
ロウズ まさみ JAMSNET  
森 真佐子 “ニューヨーク日本人教育審議会教育相談室  
The Japanese Educational Institute of New York”  
加納 良雄 JAMSNET 理事、財務 米国日本人医師会(JMSA)

JAMSNET カナダ (1名)

傳法 清 モミジヘルスケア協会

JAMSNET 東京 (8名)

濱田 篤郎 東京医科大学病院渡航者医療センター  
仲本 光一 岩手県奥州保健所  
吉田 常孝 外務省診療所  
岡田 慎一郎 自由業  
松永 優子 めじろそらクリニック  
関 英一 三軒茶屋神経科・心療内科クリニック  
鈴木 満 外務省メンタルヘルス・コンサルタント  
井上 孝代 明治学院大学

JAMSNET Asia (21名)

島崎 貴治 在パキスタン大使館 (医務官)  
中島 敏彦 Raffles Medical Group HCMC Clinic  
金津 はつみ Raffles Medical Group International Department Hanoi Clinic  
島田 久仁子 Kuniko TCM & Healthcare  
坂牧 円春 シンガポール日本人会クリニック  
菊地 夕子 日本プレミアムクリニック  
原田 舞香 シンガポール日本人会クリニック  
相賀 ゆか あいがこころケア・日本人会クリニック  
長谷川麻衣 Eis International Preschool・横浜市立大学  
吉国 泰代 Healthway Japanese Medical Centre  
山本 能康 Healthway Japanese Dental Centre  
松永 法子 シンガポール日本人会クリニック  
目原 久美 Japan Green Clinic  
大戸 智江 日本エマージェンシーアシスタンス

日暮真由美	シンガポール日本人会クリニック
元田 玲奈	Raffles Japanese Clinic
毛利 由佳	ELIXIA SG
日暮 浩実	シンガポール日本人会クリニック
Takahashi Fusako	Nihon Premium Clinic
鍋島 寛志	Nippon Medical Care
桜井 啓子	Ko Djeng Dental Centre

文責 坂牧円春、松永法子